

2017年6月9日

課題発見ゼミへの期待 上原クラス

1)

裁判例を素材に実際に討論を行うことに興味がわいた。実際の裁判例をみんなと討論することで、自分とは違う考え方の意見を聞くことができるし逆に相手にも自分の意見を伝えることができる。また、論理的思考力・報告討論する力・論理的文章を書く力は大学生には必要とされる力であり、それらの能力を討論する・レポートを書くことで養えるのでは、と感じた。

2)

私が後期の課題発見ゼミナールで選択したいクラスは上原クラスである。私が上原クラスを選択する理由を2点挙げる。

まず、1点目は私が普段新聞を読んでおらず今の世界情勢や国内においても理解していないことである。上原クラスを選択することで新聞や文献を普段から読む癖がつくと感じたからである。ネットからの情報だけで終わらしていた場面が多々見られたことも1つの理由である。

新聞などを読むことによって今の私には足りていない論理的思考力を養うことができるはずである。

2点目は討論する力を養うことができる場所である。裁判例で討論することは難しいと思うが高校時代に行ってきたディベートの知識を活かすことが可能であると感じたからである。討論をすることによって自分の考えとは全く違う考えなどを知ることができる点も1つの理由である。

期待することとして、是非裁判の傍聴に行きたいです。行った後にもう一度討論をして、裁判とどれだけ違っているのかを知りたいからである。

以上が私が上原クラスを選択する理由である。論理的思考力と討論する力が養えることに期待している。

3)

労働問題や犯罪、災害などの社会問題に対して、心理学的側面からの支援を行うという動きが近年活発になっている。例えば、地震等の災害後に医師や看護師の他にカウンセラーも被災地に派遣したり、子供が何らかの事件の被害者となった場合にその子供の通って

いた学校にスクールカウンセラーが派遣されたりする等が挙げられる。しかし、まだそのような支援が十分に整っているとは言えない状態である。よって、心理学が抱える問題やその解決方法を、文献調査や議論等を通して考え、よりよい生活を営むためにそれらを反映させるべきだと考えた。

学校外での調査を実施する予定はあるものの詳細はまだ未定であると説明していたが、実際に訪れて気づくこともあるので、是非実施していただきたいと考えている。

4)

私は、国家公務員になる事を 1 つの目標としている。公務員試験では、様々な科目が課されるが上原先生の授業で学ぶことができる人権もその科目の 1 つである。私は、公務員試験に必要な科目を積極的に学びたい。その上、人権問題に興味がある。上原先生の授業では、人権問題だけでなく読み取る力も養うことができるということで、将来必要となってくる読み取り能力も同時に身につけたい。こういった理由で上原先生の授業を受けたいと決めた。

5)

このゼミでは、基本的人権に関する裁判例を素材として、今後の授業を履修するうえで基礎となる、資料を読み解く力、論理的思考力、報告・討論する力、論理的文章を書く力等を養うことを目的としている。

私がこのゼミを選択する理由は、上記の目的の資料を読み解く力、論理的思考力などの面で、それぞれの意見が多種多様であるからだ。現在、「憲法と人権 I」の講義を受けている。そこで発表する人たちの意見は様々である。ある事例に対して賛成であるか反対であるか。さらに同意見であっても、その理由が全く同じということはほとんどない。私は物事を多様な見方をすることが苦手である。だからこそ、より多くの異なる意見を聞くことができる上原クラスのゼミを選択したい。

さらに、ゼミの目的にあるように「論理的」が大切になる。これから先、人を説得させる場面やレポートを書く場面には多く接することになる。そのためにも、大雑把で曖昧な意見や理由を自分の中で無くしていかなければならない。裁判例を素材にするということは、自分以外の第三者が多く関わる。その第三者を納得させなければならない。このような練習の場を多く取り入れてあることも選択したい理由の一つである。

このゼミに期待することは、裁判の傍聴に行くことである。私たちが考える意見はあくまで学生としての意見であり、論理的文章を書くことが中心である。裁判で弁護士や検事はどのような内容で裁判官を説得するのか、実際に見て聞いて体験してみたい。また、互いに反対の立場として、どのようなところに着眼点を置くのかも興味がある。このような実際の現場の中で得られることは非常に多いので、ぜひ裁判の傍聴に行きたい。

6)

私が課題発見ゼミで選択したいゼミは、上原クラスである。なぜこのクラスを受講したいかというと、この授業では、討論が授業の初期段階から行われていること、新聞を読むよう指摘がなされていること、また裁判所に行くことができるかもしれないこと、以上の3つの理由からである。

まずなぜ他のゼミでも討論が授業で行われる中このゼミを選びたいかというと、討論がより多くの回数を初期段階のうちから経験できるからである。私はこれまであまり人と討論をしたことがない。そのため、討論そのものになじみがない。また私は、人と話したり、自分とは異なる意見に対してどのように意見を述べていくべきかを考えたりすることが苦手である。しかしこれからの人生では人と議論したり、意見を交換したりすることが増えてくる。そのため人とのコミュニケーションが苦手なまま社会人になることは、社会生活を送るにあたって極めて危険である。このことから何回も討論を練習できるこのゼミでは私の弱点の克服や、これからの人生において必要なコミュニケーション能力を養うことができる。

次に、なぜ新聞を読むようにという指摘があるものがあるかというと、新聞を読む習慣をつけることができるからである。実家にいた時には家に新聞があったため、よく新聞に目を通していた。しかし大学生になり実家から離れたことで手近に新聞がなくなり、新聞を読む機会が減ってしまった。また多忙な大学生活から新聞を読み、ニュース番組を見たりすることを後回しにしてしまっていた。そのため、今の私は新聞を読む習慣がなくなってしまい、今社会で何が起きているのか、何が問題となっているのかがあまり理解できていない。しかしこの姿勢は政治リテラシーに欠けるものである。私たちは民主主義国家の国民であるため政治に目を向けていき、政治の動向を見つめ、政府におかしな行動があった場合には政府に対して行動する必要がある。そのためにも政治に無関心な態度や無知のまましていると、政治家たちは私たちの知らない間に政治家にとって都合の良い政策を打ち出す恐れがある。たとえ今は強制でも、新聞を読んで、このゼミが終わっても自ら進んで新聞を読むような習慣をつけることが必要である。このことから、このゼミでは新聞を読むようになれば、社会で何が起きているかが把握できるようになれる。

最後に、なぜ裁判所に行くことができるかもしれないことがいいのかというと、私たちは裁判員制度によって裁判に関わる可能性があるからだ。現在私には裁判に関する知識も、裁判所に行った経験もない。しかし裁判員制度によって裁判員に選ばれた場合裁判の知識や裁判所の中はどうなっているのかを知っている方が良い。このことから裁判所に行く機会があるかもしれないということは、将来のためにも良い経験となる。

これらのことから将来のために役立つことを期待し、私はこのゼミを受講したい。

質問：どの新聞を読むべきかという指定はありますか。

7)

僕は法律の事に興味、関心がありそのことを深く学んで見たいと思っていました。将来的に司法試験を受けたいと考えており、今のうちから裁判の内容などについて討論したりすることは自分にとって必ずプラスになると考えたのでこのクラスを志望しました。

8)

裁判に興味があり選択した。裁判を傍聴するとあり、ぜひとも参加したい。中学生のときに一度裁判を傍聴したことがある。そのときは、雰囲気を感じとることしかできなかったなので今度は内容なども考えて見たいと思う。

9)

私が選択したいゼミは上原クラスだ。地元の市役所で働きたいと考えているのでこのゼミは公務員試験で法律科目を学ぶ際今よりも興味を持って取り組めると思ったからである。

また裁判の傍聴はぜひ行なってほしい。今は遠い世界のものと感じており傍聴することによって裁判や犯罪を身近なものとして認識するきっかけとなることを望む。

質問：6回目以降のレジュメを作成して報告する作業はグループか一人かどちらですか。

10)

私が選択したいゼミは、上原クラスである。理由は2つある。1つ目は、裁判例を通して、資料を読み解く力や論理的思考力、報告・討論する力、論理的文章を書く力などが養えるからだ。これらの能力は、大学生活でレポートを作成するうえで不可欠な能力であるので、一年生のうちに身につけておきたい。2つ目は、報告・討論を通して、幅広い視野を持てるからだ。私は、将来教師になりたいのだが、現代ではいじめや虐待などの問題が生徒には多い。生徒からそのような問題を相談された際に、よりよいアドバイスをするために幅広い視野を持つ必要があると考える。また、私は国際教養コースに進む予定であり、外国人の方と会話する機会があるだろう。異文化を理解するためにも、幅広い視野を持つ必要があるのだ。

この授業に期待することは、将来に生かすことのできる裁判の例を取り上げてもらうことだ。特に私が気になっているのは、授業計画の「プライバシー権」と「平等権」についてだ。理由は、どちらも将来に生かせそうだと考えるからだ。

11)

私は現段階で上原先生のゼミを選択肢の一つとして考えている。上原先生の授業では裁判例を素材として論理的に考えたり、討論したりするということである。論理的に考えるということについて今までこの総合科学入門講座で学んできたが、この講座で学んできた内容がいかに大切なことがよく分かるのは裁判という場であるといえる。弁護人が膨大な資料をもとに、根拠に基づいたうえで発言を重ねる。そして、最終的には結果が出る。負

けた原因は必ずどこかにあり、より論理的な考え方が求められる場であるといえる。争っている事例に対してどちらかの立場に立ち、自分と逆の立場の人と討論することは、論理的に考えるための素晴らしい訓練になる。過去の裁判例は自分の考え方を広げ、深めるための素晴らしい材料となる。社会に出ていく上で必要な論理的な考え方を実践的に高めるために、このゼミを選択することを検討する。

12)

高校時代の現代社会の授業がきっかけである。実際の判例を知り、どのような場合にはどのような法が適用されるのか、を学ぶ中で強く法学に興味を持ったためこの講義を履修したい。また、これを機に、論理的思考力とそれを利用し文章に起こす力を養いたい。また、実際に裁判の傍聴をできる機会もあるかも知れないということで、それにも期待している。

13)

私は、後期の課題発見ゼミナールで、上原クラスに入りたいと考えている。私はこれまで、グループ活動をする際に意見を言うだけで、最後にまとめることを人に任せてしまう事が多かった。自分から意見を出し、他の人の意見を考慮した上でまとめることが、私の将来の夢であるイベントやメディアの仕事には必要不可欠である。それゆえ、上原クラスで、中学の時から好きであった基本的人権や裁判を通して積極的に報告・討論する力を養いたい。せつかくの社会的なことを広く学べる徳島大学総合科学部であるため、また、2年次以降のコース配属に影響しないということであるため、自分の学びたいことを学び、グループ活動で報告・討論する力を養いたい。さらに、「都合がつけば、裁判の傍聴なども行いたいと思います」とシラバスに記載されており、ニュースやドラマでしか見たことがなかった裁判の傍聴ができることで、今実際に発生している問題について考えることができるため、より上原クラスに配属されたい思いが強まった。

14)

課題発見ゼミナールで、現時点で履修をしようと考えているのは上原先生のクラスだ。討論によって自分の意見を相手に根拠立てて伝える力や他の人の意見から検討していくことで、論理的に物事を考える力がつけられる。また、報告者を決めて討論をするということで、意見に説得力を持たせることを意識して取り組むことができる授業内容になっている。

今私が一番身に付けたいことは相手に自分の考えを根拠立てて伝える力だ。上原先生のクラスは、討論の時間が多く設けられているため、そういった力をつける場として適していると考えたので、第一希望として選択した。裁判の傍聴もぜひしてみたい。

複数を選択

+熊坂・佐藤・山口

私は将来厚生労働省に勤務して、福祉政策の施策などに携わりたいと考えている。福祉政策の対象にはもちろん障害を持った方も含まれる。そのため B の「障害を考える」というテーマに取り組むことは将来のために必要なことである。国はどのような形で障害を持った方たちを支援すればよいのか、具体的にはどのような政策を行うのがよいのかを研究したいと考えている。

そして国家公務員として働くうえで法律や基本的人権についての理解は必要不可欠である。また、最近では医療の現場で自己決定権が重視されており、医療制度にかかわる業務も行う厚労省で勤務するには自己決定権に対する知識も必要である。そのため C も候補として考えている。そして担当教員である上原先生は行政法を専門されているようなので、C を受講した場合は行政組織の在り方などについても話をうかがうつもりだ。

+佐藤（健）

私は将来教師として学問はもちろん生徒の人間性を育てられるような人物になりたいと思っている。

そのために、上原教授のクラスもしくは佐藤教授のクラスで人間の内面の衝突や「正しい答えのない」問題に向き合って自分の客観的な思考と判断力を養いたい。

そしてこの授業で培った経験を生かして誰かの模範となれるような人格者を目指し、偏りのない道徳観を持った生徒を育てたい。

ゆえに私は上原教授のクラスか佐藤教授のクラスを選択するつもりである。

私は上原教授のクラスと佐藤(健)教授のクラスに興味がある。上原教授のクラスでは基本的人権や自由、自己決定権について討論するそうだ。私自身、以前から法律には大変興味を持っていた。現在、一般教養として清水教授の法学入門を履修している。法律は人が生きていく中で必ず関係してくるものである。法律によって良い方向、悪い方向に人生を変えられる人もいる。そんな重役を担っている法律というものをもっと身近に捉え、深く学びたい、知りたいと思ったからだ。また、佐藤教授のクラスでは心理学というものについて

て学び、かつプレゼンテーションするそうだ。私は心理学にも興味がある。人はどのような状況の時にどのような行動をとるのか。この授業ではプレゼンテーションも学ばらしく、これは社会に出た際に必ず必要となってくるものであるため、心理学をマナエルとともに、プレゼンテーションが苦手な私にとって最初から教えてもらえるのはありがたいと思ったからだ。

私は心理学を学ぶために大学に入ったので、早いうちから取り組みたい気持ちがある。心理学を学ぶ上で臨床心理学,健康心理学,社会心理学に関する社会的課題を知ることは重要であり、調査・プレゼンテーションする能力は大いに役立つ。

一方で、自分の専攻するであろう分野以外にも視野を広げたい気持ちもある。将来どんな仕事に就くにしても資料を読み解く力、討論する力は必要になる。実際に討論するなど実践的で、それらを身につけるために最適な授業なので、とても興味がある。

+ 葭森 + 内藤

A (葭森), J (内藤) を選んだ理由等

フィールドワークについて興味があり、かつ自分の足で情報を収集するという経験はぜひするべきだと考えたから。また、自分の常識外のことを体験し、自分の視野を広げたいと考えたから。常識外のことはもちろん、普段何気ないことでも、それらの裏/理由には何があるのかを学習できることを期待したい。

C (上原) を選んだ理由等

私はプレゼン能力があまりないと自負 (自覚?) しており、まだプレゼン能力は社会に出るときに必須な能力であるので、是非とも身に着けるべきだと考えたから。また徳島の変った光景について、ここにきてまだ数か月ということもあるので、どのようなものがあるのか知りたいから。この授業によって、徳島の変ったものについて知ることやプレゼンの基本的なやり方はもちろん、分かりやすいプレゼンのやり方、人を引き付けるプレゼンのやり方等を身に着けたい。

質問：内藤先生の授業は、防災についても触れるのでしょうか?シラバスには防災について載っていたのに説明では防災について特に触れられていませんでしたので気になりました。

+ 三浦 + 吉田

私は主に吉田先生の H クラスと上原先生の F クラスとで迷っている。H クラスを選んだ理由はこれからの社会、未来のことを考えるという夢のあるゼミであるからだ。また、私は広報の仕事をやりたいため、パソコンスキルを上げたいしデザインも触りたいと考えていた。そのため、とても自分に合っているものに思えた。F クラスを選んだ理由は今の総科の基礎(社会学)の授業が大変面白いからだ。社会学の中でも特に法律や刑罰に関する分野が好きなので選んでみたい。両方とも、「なんかよさそう」というフィーリングが決定の大きな部分を占めているがそういった根拠のない「面白そう」によってさまざまな分野に足を突っ込むことができるのでフィーリングはある程度は大切にしたい。そういった意味では三浦先生の D クラスにも興味がある。これこそ本当に理由がない。ただ「面白そう」これだけだ。こういった小さなことから考える幅が増えればいいなと思っているため、今のところ絶対これがいいというのではない。

＋真弓＋衣川

論理的な思考を身に着け、自分で統計データを解釈できるようになりたい。自分の目標の経済学関係の仕事に役立てると考えたから。数学はあまり得意ではないので理解しやすい授業を期待している。第二、第三希望も論理的な思考を養えると思って希望した。

私が後期の課題発見ゼミナールで取りたい授業は、上原先生、衣川先生、真弓先生のクラスである。まず、上原先生クラスの理由を述べる。私は、2 年生で公共政策コースを希望している。さらに、法律や裁判や法律に興味があり、将来裁判所で働くことも考えているので、事前学習をして知識を得たいからである。次に、衣川先生のクラスの理由として、現在一般教養科目で歴史の授業をとっていないので、率直に日本の歴史について学びたいと思ったからである。また、高校の時は日本史をとっていたので、その知識と結びつけて勉強でき、2 年生以降で公共政策コースに入ったら文学や歴史を勉強できる機会が減ると思ったので 1 年生のうちに学んでおきたいと思うからである。さらに、グループワークを通して、コミュニケーション能力などを高めたいと思ったからである。最後に、真弓先生の授業の理由を述べる。将来公務員として働くことを希望していて、市役所や県庁で働くことになった時、統計データを用いることが多いと覆うので、大学生活の中で統計の知識を深めたいからである。また、自分の主観的な考えだけでなく、客観的データを用いて判断する能力を身に付けたいと考えているからである。

期待する授業については、まだ、同級生で話したことのない人面識のない人がたくさんいるので、少しでも多くの人と交流できたらいいと思う。

+ 葭森 + 熊坂・佐藤・山口

もともと興味があった分野でもあるし、公務員になるために必要な知識はもちろん、考え方も身につくからだ。

+ 葭森 + 吉田 + 内藤

A (葭森) :自分が小学生の頃から育った徳島について知りたいから。私は大学に入って徳島のことを聞かれる機会が多くなったが、きちんと答えることができない。この機会に徳島の魅力を堪能したいから。

F (上原) :裁判を傍聴したい気持ちが小さい頃からあり、裁判を傍聴することは今の徳島で何が起きているのかも知ることが出来る。このような体験は他ではあまり出来ないし、絶対に自分のためになり、良い経験であるから。

H (吉田) :私は去年徳島大学のファーマーズマーケットに行った。地域と蜜となれるこの活動は素晴らしいと思った。来年もし徳島大学に行けてたら参加したいなと受験生ながら考えていた。このクラスに行くことで高校の時からファーマーズマーケットに参加したいという小さな願望を実現出来るから。さらに、日本だけでなく、アメリカのまちづくりを知れて、視野が広くなれそうだから。

J (内藤) :南海トラフ大地震は向こう 30 年以内に約 70 パーセント起こると言われている。(http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/kaiko/k_nankai.htm 6月11日アクセス) 生きている間に起こる可能性の高い地震についてきちんと知りたいから。高校の時とは違う実践的な防災活動を学びたいから。

+ 眞弓 + 吉田 + 内藤

私は今、上原クラスと内藤クラスと眞弓クラスと吉田クラスの全部で 4 つのクラスを考えている。まず上原クラスと眞弓クラスを考えている理由で共通の理由は、私は 2 年次からのコース選択に公共政策コースを考えており、将来的にも公務員になることを第 1 希望にしているからだ。また上原クラスは基本的人権について学習を進めていき、もしかしたら裁判の傍聴ができるかもしれないからだ。現在日本では裁判員制度が導入されており、誰もが裁判員に選ばれる可能性があるから裁判について前もって知っておくべきだからだ。次に眞弓クラスは、主に統計学について授業を進める予定で、統計学も公務員試験に出題されるからだ。次に内藤クラスと吉田クラスを考えている理由で共通の理由は、どちらも

実際にフィールドワークをすることで徳島県が抱えている問題や魅力について知ることができるからだ。私は地元をもっと活性化させたいという思いがあるので、実際に自分で経験したことを元に地元でも生かしていきたいからだ。さらに吉田クラスでは自分たちでファーマーズマーケットをデザインして成功することで自信をつけたり、実際に仕入れや販売を経験することでコミュニケーション能力が向上したりすることに私は期待している。そしてどの授業においても積極性やプレゼン能力の向上などについて期待している。